

はじめに
身の細る思いながら
南信州文化財の会長
を仰せつかっている。

その関係から「春草誕
生の地」整備を願う市
民の会」に準備会の段
階から参加させていた
だいてきた。

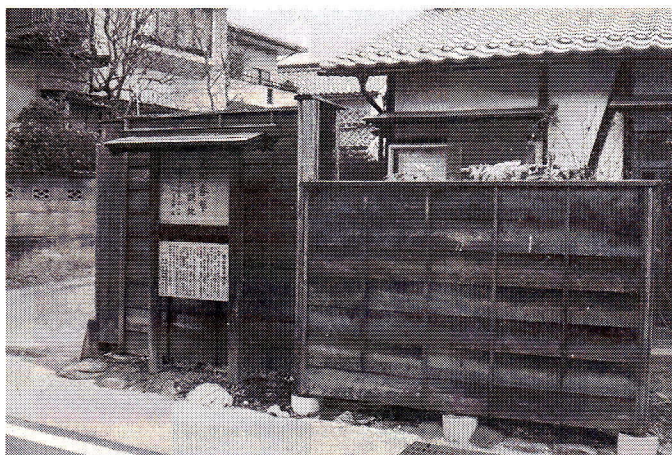
たまたま去年が春草
没後百年に当たるとい
うことで、長らく懸案
であった春草生誕の屋
敷跡を公園にし、後世
に残そうと昨年六月地
元の方々が中心になっ
て立ち上げたのが、こ
の会であり整備計画で
ある。

の歩みは、その都度地
方紙、中央紙ともかな
り細かく報じているの
で、「承知の方も多い
こと」と思う。

昨年、いくつかあっ
た春草没後百年の記念
事業の最たるものは、
美術博物館で開催され
た特別展ではなかった
ろうか。春草作品だけ
でなく、春草を取りま
く大観、観山らの諸作
品ともども、全国から
集められたすばらしい
諸作品に心うたれた方
も大勢いられること
と思う。

今回のこの取り組み

屏風「雀に鴉」の前に
した私の耳に、雀のに



生誕の地

ぎやかな囀りの声が響
いてきて、しばらくの
間立ちつくしていたこ
とを今でもはつきりと
思い出す。春草絵の持
つ力の偉大さを改めて
知ったことであった。

菱田春草の日本画壇
における位置や評価に
ついては、ここで改め
て記すまでもなから
う。日本に、世界に冠
たる大天才画家といえ
よう。この大天才画家
生誕の跡地が放置され
ていて残念なので、何
とか整えたいというの
が今回の会の計画、願
いである。

ところで、この市民
の会が計画している事
業を実現するために、
広く方々にご寄付を願
っていることはご承知
のことと思うが、まだ目
標額に達していない。
お心にありませんが、ま
だなされてない方、
お忘れになっていたら
る方、どうしようかと
迷っておいでになる方
などの、お目に留まれ
ばと思ひ、この一文を
ものした次第。

生誕の地についてか
つての心ある方々の思
い



菱田春草肖像

事務局代表の勝野さ
んから、「こていねいな
優品を遺されている彫
刻家、倉沢興世さんは
学芸員桜井さん提供と
いう資料とをいたたい
跡(春草の生家跡、筆

菱田春草誕生の地整備計画

—ぜひとも応分の協力—

吉澤 健

た。
これらの資料に目を
通して私はびっくりし
た。資料を読むまで私
自身、それほど深く春
草の頭章や生家跡の整
備について考えていな
かったことに起因する
が、資料の文章を書か
れた方々が春草生誕の
地が整備されていない
ことに、いかに強く慙
愧の思いを持たれてい
たかを知ったからであ
る。

者(注)は文化都市を自
負する文化史跡として
一、二を屈すべきでは
ないでしょうか。種々
な事情は知らないが、
この大切な史跡が現在
のような有様であるこ
とは全く慮外というべ
く、文化都市といふ観
光都市という飯田とし
ては、全く恥ずかしい
ことであり、惜しむべ
し。またこれら文化の
花を咲かせた先人に対
してもすまないことだ

と思う。(後略)〔菱田
春草誕生の地〕南信州
新聞」と書かれてい
る。きょうこの頃のこと
かと思わせられる文
章である。

宮内庁庭園技師であ
った斉藤春彦さんは
〔前略〕来飯した他郷
の人々から案内を懇請
されても、はずかしく
て案内できない状態で
す。(中略)せめて、ま
ず第一歩として、仲之
町春草屋敷跡の一隅
に、狭くともよい、関
係皆様のご協力を得
て、ゆかりの碑でも立
て、春草が愛した若杉
と小さい柏の木でもあ
しらって、こざっぱり
した清地をもちたい。
そうすれば、だれが来
ても、安心して案内が
出来るというもので
す。(後略)〔春草邸
跡〕(同前紙)長く中枢
で活動された庭園技師
としての卓見と願いで
あったろう。

飯田図書館長を勤め
られ、当地の文化に多
大な足跡を残された池
田寿一先生は『近代絵
画全集』の著者、吉田
忠先生が来飯された
折、春草のお墓と屋敷

跡を訪ねたいとの申し出を受け案内された折のことを、次のように記されている。「(前略)ここが屋敷跡ですと示された時わたしは不覚の涙をおさえかねた。いたたまれない悲しさ、恥かしさ、そしていきとおろしさ。：ああ、あの日の涙をわたしは生涯忘れないであらう。(中略)」と記され、木曾の藤村記念堂、安曇の碌山館、上田の山本鼎記念館、信濃町の一茶堂、篠ノ井の川村驥山館など県下の各地の記念館を列挙さ

れた上で「画の町飯田」を提案されて「死後もなおこの先覚者(春草のこと、筆者注)はひとり苦難の道を行くのか。これはいち早く全真的に顕彰された水戸の大観とは対象的だ(後略)」「春草の町」(同前紙)まさに悲痛の思いでいられたことが如実である。

これらは昭和四十年代に書かれたもので、今から四十余年間、ほぼつぼつ半世紀も前の方々の思いである。これら先人の方々の文章に接する時、これらの方々が今回の計画を知られたら、どんなにか喜ばれ、励ましの言葉を発せられるであろうか。そのお顔や声が見え、聞こえて来て、この計画を実現させ、立派なものにしなければという思いがわき上がってくる。飯田市にとって恥かしくない整備を

しかし、るる述べて来たように春草という大画家が残した業績を考える時、また飯田市が春草の文化的遺産の顕彰を考える時、そんな小さな問題ではなからうと考える。幸いにして飯田市美術博物館は、県宝となつた「菊慈童」をはじめとじて、春草作品を着々と整えられて来ている。今回の誕生の地整備計画は、この美術博物館の春草諸作品と柏心寺の春草のお墓との三つを結んだ文化財として、飯田市が全国に誇る菱田春草顕彰の場にしていくという視野をめぐらしてもいる。これが実現すれば文化経済都市飯田にとって恥かしくないものになる(どううけあいである)。



「春秋」明治43年(双幅)

そのためには、一人でも多くの方々に協力をいただいて、立派に整備したいもの、趣旨(理解の上、ご協力を切に願います)次第です。

(写真はいずれも美術博物館提供)